京都大学

京都大学サロン LHS

会員募集

京都大学の文理の知性を結集し、生命、人間、社会を対象に、経済学・情報学・医学を中心に、データサイエンス、人工知能の最先端研究を広く紹介するとともに、産官学で活発に交流するサロンを新たに開始します。
幹事は京都大学経済学研究科/依田高典教授、情報学研究科/神谷之康教授、医学研究科/川上浩司教授が担当、文理融合・学際性を尊重した交流のためのサロンとなります。
本機会に参加することで、「大学の先端の現場で何を議論しているか」を企業の開発や事業企画に活用できるとともに、産学連携の新たな道筋を描くことも可能になります。
複雑化する社会、目の前の課題解決ではなく、10年後を見据えた今後の成長事業の根幹につながるテーマ設定のヒントを見つける場となります。

特徴1

一般向けの研究紹介ではなく、今現在、何を最先端で研究しているかを深く知ることができる

特徴2

なかなかアクセスできない、大学内部の議論、研究者同士の議論に触れることができる

サロンLHS(レフト)とは

設立背景

近年、データサイエンス・人工知能が流行となり、文理融合・学際連携が盛んになっているものの、京都大学内においては横の連携がまだまだ活発ではない状況にある。
そこで、経済学研究科 依田高典教授、情報学研究科 神谷之康教授、医学研究科 川上浩司教授を当面の幹事とし、先端的な社会問題解決をはかる研究者同士の自由闊達な研究交流できるサロンLHS(レフト)を設立するに至った。

設立基本構想【理念】

- 生命(Life)・人間(Human)・社会(Society)を研究テーマとし、データサイエンス(Data Science)・人工知能(Artificial Intelligence)をツールとして活用し、先端的な社会問題解決をはかる研究者同士の自由闊達なサロンを目指す。
- サロンを通じて、イノベーティブな研究創出・人材育成・産学連携を期待する。

発起人・幹事

京都大学 経済学研究科教授 依田 高典
京都大学 情報学研究科教授 神谷 之康
京都大学 医学研究科教授 川上 浩司

実施概要

- 1回2時間程度×年間6回のプログラム
- 各回、①講義(60分程度)、②サロン研究者のディスカッション(30分程度)、③質疑応答(30分程度)を実施

※各回ごとにテーマを設定、テーマに関して話題提供する教員が登壇
※各回、京都大学の多様な分野の研究者(各回20〜30名)がディスカッションに参加、ディスカッション参加企業様からの問題提起や質問も可能

- 各回終了後に懇親会を実施(予定)
- サロンでは文理融合・学際性を尊重し、自分たちの研究アプローチを異分野の研究者に紹介しつつ、かつ、相互に理解してもらうことを念頭に分かりやすい説明を実施

※新型コロナ・ウイルスの感染状況を睨み、当面はZOOM開催を想定
※リアルな開催(京都大学内での開催を想定)が可能になっても、遠方からの参加が可能なように、オンラインの視聴参加を可能な形で実施

申込締切 2021年5月14日(金)

申込方法 https://www.kyodai-original.co.jp/?p=10962

問い合わせ 京大オリジナル株式会社
ナレッジプロモーション事業部
Tel 075-753-7778
Mail kensyu@kyodai-original.co.jp

□ スケジュール □

日時	幹事	話題提供者／テーマ
第1回 2021年5月28日(金) 18:00～20:00	経済学研究科 **依田 高典 教授**	ウイルス・再生医科学研究所 **望月 敦史 教授** **生命システムに対するモデルフリー理論－細胞運命の操作と遺伝子制御の予測－**
第2回 2021年7月30日(金) 18:00～20:00	情報学研究科 **神谷 之康 教授**	文学研究科哲学専修 **大塚 淳 准教授** **統計学を哲学する－統計はなぜ科学的根拠になるのか－**
第3回 2021年9月24日(金) 18:00～20:00	医学研究科 **川上 浩司 教授**	医学研究科社会疫学分野 **近藤 尚己 教授** **「社会」はいかにして“皮下にしみこむ”か？－社会疫学からみる健康長寿達成戦略－**

第4回以降のスケジュール						
	第4回	2021年11月26日(金) 18:00～20:00	第5回	2022年1月28日(金) 18:00～20:00	第6回	2022年3月25日(金) 18:00～20:00
	幹事	経済学研究科 依田 高典 教授	幹事	情報学研究科 神谷 之康 教授	幹事	医学研究科 川上 浩司 教授

※第4回目以降の話題提供者、テーマは参加者の希望も考慮して検討いたします。

□ 参加料・定員 □

	参加料	人数	定員	参加形態	その他
サロン A会員	30万円（税込）	1企業3名まで参加可	20社	パネリストしてディスカッションにも参加可	幹事、または話題提供者の先生への個別相談会の実施が可能 ※各回1回1時間程度　※合計3回まで実施可能 ※各回2回目以降は別途実施費用が発生します。
サロン B会員	10万円（税込）	1企業1名まで参加可	20社	ディスカッションには参加せず視聴のみの参加（質疑応答は可）	

京都大学 経済学研究科教授 依田 高典

1989年、京都大学経済学部卒、1995年、京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士（経済学）。甲南大学講師・助教授（1995-2000年）、京都大学大学院経済学研究科助教授（2000-2007年）を経て、現在、京都大学大学院経済学研究科教授（2007年-現在）。その間、イリノイ大学（1997-1998年）、ケンブリッジ大学（2000-2001年、2005年）、カリフォルニア大学（2011-2012年）客員研究員を歴任。専門は応用経済学。情報通信経済学、行動経済学の研究を経て、現在はフィールド実験とビッグデータ経済学の融合に取り組む。日本学術振興会賞、日本行動経済学会ヤフー論文賞、日本応用経済学会学会賞、大川財団出版賞、ドコモモバイルサイエンス奨励賞等を受賞。人間の経済心理の限定合理性に着目する「行動経済学」が専門。実際の生活の中で仮説検証を行う「フィールド実験」を用いる。経済学と機械学習の融合研究にも励んでいる。

メッセージ

データサイエンス・人工知能研究は文系・理系の学問を問わず、共通のツールになっています。そうしたツールを生命（Life）・人間（Human）・社会（Society）の問題解決にあてる研究会を、京都大学の研究科の垣根を越えて、学際的に立ち上げることになりました。また、ビジネス・サイドにも広く門戸を開き、大学の知を還元していきたいと思います。ここから新しい大学の在り方が生れることを祈り、皆さまの活発的な参加を期待します。

京都大学 情報学研究科教授 神谷 之康

奈良県生まれ。東京大学教養学部卒業。カリフォルニア工科大学でPh.D.取得後、ハーバード大学、プリンストン大学、ATR脳情報研究所を経て、2015年から京都大学情報学研究科 教授。ATR脳情報研究所 客員室長を兼任。機械学習を用いて脳信号を解読する「ブレイン・デコーディング」法を開発し、ヒトの脳信号から視覚イメージや夢を解読することに初めて成功した。SCIENTIFIC AMERICAN誌「科学技術に貢献した50人」（2005）、朝日21関西スクエア賞（2009年）、塚原仲晃賞（2013年）、日本学術振興会賞（2014年）、大阪科学賞（2015）等を受賞。2018年、ATRフェローの称号を授与される。サーペンタイン・ギャラリー（ロンドン）でのピエール・ユイグの展示 “UUmwelt”（2018年）のための映像を提供するなど、アーティストとのコラボレーションも進めている。

メッセージ

大学では、運営業務でいろんな分野の先生と一緒に仕事する機会があるのですが、どんな研究をされているのか案外知りません。残念なことです。このたび、依田先生のお声がけにより、人工知能やデータサイエンスを切り口として分野を横断するサロンが立ち上がりました。研究対象は異なれど使っている数学や概念は重なるので、新しいアイデアにつながる「摩擦」が起こることを期待しています。「興味深いお話ありがとうございました」では終わらないプロボカティブな議論を楽しみたいです。

京都大学 医学研究科教授 川上 浩司

医師、博士（医学）。筑波大（医）卒、米国食品医薬品局（FDA）にて臨床試験審査官、研究官を歴任後、東京大（医）客員助教授を経て、2006年に33歳で京都大学教授（医学研究科・社会健康医学系専攻）。2010年－2014年京都大学理事補（研究担当）。現在、学内では、総合生存学館教授、政策のための科学ユニット長、臨床研究者養成（MCR）コースディレクター、デジタルヘルス学産学共同講座研究責任者、学外では慶應大（医）客員教授等を兼務。公的・学会活動は、厚生労働省データヘルス・審査支払機関改革本部アドバイザリー、健康・医療・教育情報評価推進機構（HCEI）常務理事、日本臨床疫学会理事、日本薬剤疫学会理事、医療データベース協会理事、日本セルフケア推進協議会理事、地域包括ケア病棟協会参与など。

メッセージ

経済学研究科の依田教授のご主導で本研究会の幹事に加えさせていただき、感謝しております。学内において学問領域や部局の枠組みを越えてデータを活用した研究や活動について勉強や議論をする機会はほとんどなく、今回の取組は大変重要であると考えております。さらに、学外の研究者や産業界の方々等との交流によって、新しい学問の誕生や事業展開の可能性もあることは社会的な意義もあり、なにより刺激的なことであります。本研究会の発展を楽しみにしております。